

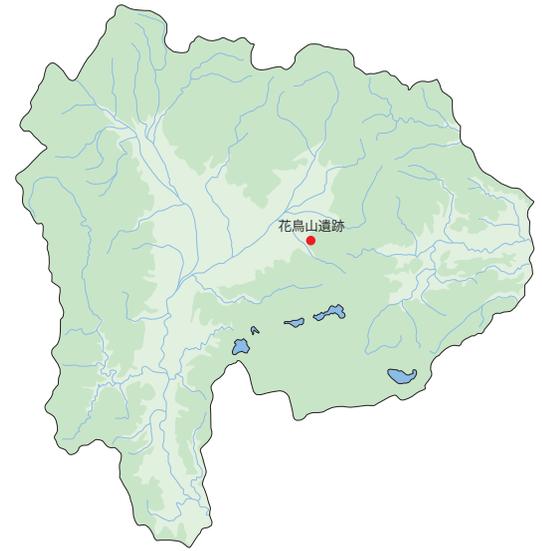
# ホームページ展示解説 「花鳥山遺跡と諸磯式土器の展開」 前編

花鳥山遺跡は御坂山塊の北麓に位置する丘陵上に立地します。この丘陵の下には浅川・天川扇状地が広がっており、これらの扇状地の遺跡からは花鳥山遺跡の人々が用いたものと同時期の諸磯式土器が出土します。おそらく縄文時代前期後半にこの地域で生活していた縄文人は、河川による氾濫の影響がない場所に住まいを設け、扇状地全体を活動範囲として用いたものと考えられます。

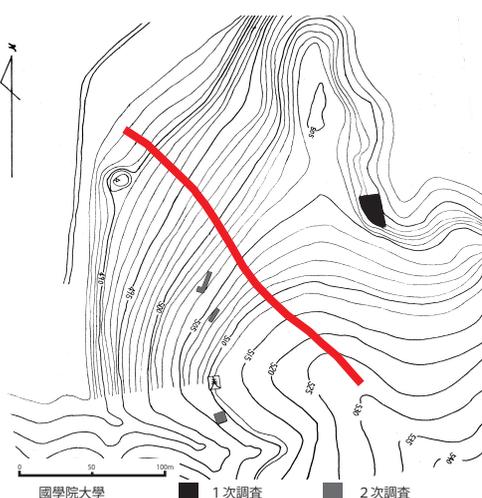
花鳥山遺跡は大正年間に仁科義男氏によって調査された後、山本寿々雄氏・松田保彦氏・野沢昌康氏によって発掘調査が行われました。國學院大學教授樋口清之氏は遺跡の様子や出土品を実見する中で遺跡の大きさと出土量の豊富さに驚き、昭和29年（1954）4月と昭和30年（1955）3月の2回に分け、第1次調査で1ヶ所、第2次調査で3ヶ所を対象として発掘調査を行いました。この結果、合計3軒の住居跡が出土しました。

また、樋口教授は花鳥山遺跡から出土した諸磯a式から十三菩提式までを含む土器を花鳥山式という名称を用い、花鳥山Ⅰ式から花鳥山Ⅳ式までの4型式に分類しました。

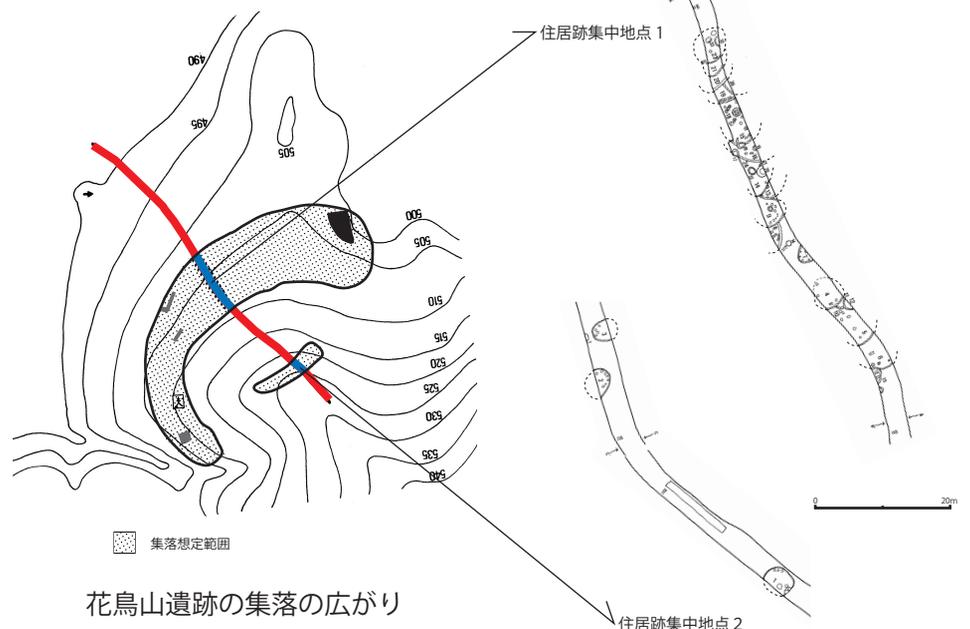
昭和62年（1987）、花鳥山遺跡が位置する丘陵の農道下に水道管を埋設することとなったため、山梨県埋蔵文化財センターによる発掘調査が行われました。発掘調査は國學院大學調査地点第1次調査と第2次調査の間で丘陵を縦断する様に実施されました。幅約3mの狭い範囲ではありましたが、諸磯b式期の住居跡5軒・諸磯c式期の住居跡7軒などが出土しました。遺構の上には最大1mもの遺物包含層が確認されており、これらの状況から諸磯c式期を中心とした大集落であったと考えられます。



花鳥山遺跡の位置



花鳥山遺跡の調査地点



花鳥山遺跡の集落の広がり